

継続は力なり

茗溪塾塾長 長谷誠基

10月に入り大分涼しい日が多くなってきました。9月以来受験生は志望校別特訓や過去問ルームが始まり、模擬試験も毎月受験し、学校行事もありとかなり忙しい時期になっているのではないのでしょうか。受験生以外でも学校の定期試験や部活の大会など毎日何かに追われているという感じの人もいます。

この時期になると受験生の悩みは、模試で思うような成績が出せないことや過去問で点数が取れないなどがあると思います。10月は、9月に夏休みで頑張ってきた内容の整理を行ったあとに来る実戦力を付ける時期になります。模擬試験もほぼ全範囲になっていますし、過去問は当然全ての範囲から出題されます。その出題された問題の1つ1つを、今まで学習した解き方に照らし合わせ、一番良い解法を選び出す。この作業が自然に頭の中で組み立てられるようにするための練習を正に今やっていることになります。知識も同様です。同じ答えになる問題でも問われ方が違うと、なかなか気づかなかったりしますので、実際にいろいろな問題を解いてみて、判断力を付けていくことが重要です。過去問などを解いて、採点したあとには必ず自分で間違えたところを確認しましょう。そのときに初めに必ず解答解説を読んでみてください。そこで、「あ～、そうだったのか！」などの気づきがあれば、その後出てきたときに記憶に残っていることが増えるでしょう。それをただ単に答えを書き写すなどをしてしまうと、また同じ間違いを繰り返すことになります。また、過去問には間違えた問題には印をつけておいて、後でもう一度解いてみてください。できなければもう一度と繰り返しやり直しをして、身につけて行ってください。算数や数学などで解説を見ても解き方が分からない問題は、必ず先生に質問しましょう。また、模擬試験もやはりやり直しが大切です。これも一度は解説を読んでみて、わからなかったら先生に質問してください。また、模擬試験は成績が出たときに正答率が発表されますので、自分の目標校に応じて、〇%以上は必ず出来るようにするなどの目標を決めてやり直しを行ってください。簡単には偏差値50を目指すのであれば、正答率45%以上、60を目指すのであれば正答率30%以上などのようにすると分かりやすいと思います。中には正答率が2～3%しかない問題もありますので、そこに時間をかけるよりはほかの問題を重点的にやりましょう。

この秋は受験生にとってかなり重要な時期です。忙しい中でも決められた学習はきちんと行い、過去問・模試の直しを続けていきましょう。この成果は1・2か月後に必ず現れてきます。継続は力なりです。